

平成30年度の教育活動に対する学校評価書

学校番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制	記載者	総合	A:よくできた B:だいたいできた C:不十分だった D:ほとんどできなかった
------	----	---------	----	-----	-----	----	--

今年度の重点目標（学校経営目標）		具体的取り組み計画	評価	成果と課題 自己評価	関係者評価
1	総合的な教育力の一層の向上	①面接指導及びレポートの内容や方法を工夫し、基礎学力の確実な定着と授業への参加意欲喚起や主体的な学習態度を身につけさせる。 ②校則（「生徒心得」）の見直しを行い、自ら律することの出来る内容に改め、学校内はもとより校外での生活指導を強化する。 ③遠足・修学旅行・文化祭等の特別活動や校外スクーリングへの積極的関わりを持たせることによって、より充実した学校生活を送る取り組みをおこなう。 ④社会的・職業的自立に必要な基本的な知識・技能を育成し、進路選択を自ら推進できるようになるためのキャリア教育を充実する。	B	①レポートに中間締切日を設定したことにより、段階的に学習させることができ、期限を守る意識の定着がなされた。 ②校則及び罰則の明文化により生徒の理解も深めることができ、校内での暴力行為等の事案は激減したが、校外での指導（特に喫煙に関する指導）が不十分である。 ③学校行事は年々充実し、友人関係の構築に功を奏した点があるが参加生徒の固定化が進んでいるため、もっと幅広く多くの生徒が参加できる取り組みが必要。 ④総合学習・ガイダンス等でキャリア教育を推進したが、生徒自ら行動できるまでにはなっていない。	B
2	生徒一人ひとりの個性に応じた、きめ細やかな対応を行うための整備	①困難を有する生徒（不登校傾向・発達障害・問題行動など）が、充分にかつ積極的に教育を受けようとする意欲を喚起できる教職員の指導体制を構築する。 ②吉田本校及び各スクーリング会場の生徒数及び困難を有する生徒数に応じた教職員の増加と適切な配置を行う。 ③教職員の組織化と指導力向上のための内部研修を実施し、外部研修を積極的に活用する。特に、中堅教職員（ミドルリーダー）の組織化が急務であり、OJTで養成をはかる。 ④未履修・休学中の生徒・保護者へのアプローチを継続して行い、履修・復学を促す活動を活発化させる。	C	①②年々増加する困難を有する生徒に対して教員間の共通認識等、継続して取り組んできたが、細かな対応を実施するための十分な教員数とは言い難く、引き続き指導体制（質的・量的両面）の構築が急務である。 ③徐々に教職員の組織化が進められているが、内部研修・外部研修とも不足しており、中堅教職員の養成が困難な状況にある。但し、発達支援基礎研修が1月から定期的実施され、今後、課題解決の糸口となることを期待する。 ④未履修・休学中の生徒への対応は、徐々に進んでいるが、確実性のある決定的な方策はない為、手をこまねいている状態が多々見える。また、学費未納による未履修・休学が多い現状をどう克服するかが大きな課題である。	B
3	技能連携教育施設（各スクーリング会場）との連携強化と内容の充実	①多くの生徒が通学スタイルを選択しやすいように、学習意欲を喚起させる取り組みを行う。 ②全日スタイルのコース制を改編し、より魅力のあるコース学習となるように内容の充実を図る。 ③特別支援学校・学級や放課後デイサービスの専門機関との交流・連携を強化し発達支援モデルの構築をさらに継続していく。 ④静岡スクーリング会場の新校舎設置。	B	①通学スタイルの拡充が図られ、体験授業を通してより魅力があり学習意欲を喚起させる内容を提示した。 ②アンケート結果に基づきコース内容を刷新したため、生徒の満足度は上昇しているが、学習関連のコースは生徒個人の習熟度に差があり、より細分化が必要。 ③放課後デイサービスとの連携が一部なされており、就労支援機関との協力も図られてきたが、発達支援モデル構築は今後の基礎研修から本格的に始まると予想される。 ④目標通り設置完了し、生徒の満足度は非常に上がっている。	B
4	吉田本校の整備・充実	①週三日のウィーリースタイルを継続し、部活動・キャリア学習・インターンシップ・ボランティア等の様々な活動を行い、高校生活の充実を図る。 ②授業実施日以外の二日間で定期的な資格取得講座を設置し、就職支援のための取り組みを行う。	B	①ウィークリースタイルは継続して実施したが、配置人員の縮小により部活動等の様々な活動は制限された。その中において、吉田特別支援学校でのイベントには例年通りボランティアとして参加した。 ②定期的な資格講座は設置できなかったが、「料理検定」「救命救急講習」等の資格試験や講習を実施できた。次年度は、さらに多くの検定を行い、就職に役立つ資格取得に取り組む。	B
5	I C T教育及び、校務システムの整備・拡充	①インターネット授業配信を円滑に進め、教育サービスの拡充をはかる。 ②静岡県立高校仕様へ変更した校務支援システムに関して、さらに業務効率化を図るための、システムの整備・拡充をはかる。	B	①インターネット授業配信は昨年同様実施できたが、最低限度の回数しか録画出来ていないため、学習補助のための配信の拡充が望まれる。また、生徒の視聴が集中した場合、サーバーに負荷が掛かり視聴が出来ない点を解消する必要がある。 ②一部カスタマイズを実施することができ、昨年度よりも使いやすくなったが、さら通信制特有の処理を必要とするところがあり、改善の余地が残っている。	A
6	第14回中部地区「私学展」当番校	今年度、10月7日（日）に実施される静岡県中部地区「私学展」において当番校として成功に導くために、全教職員一致した体制作りを行う。	A	当番校として、実行委員中心に事前準備が十分に進められた。台風接近に伴う中止も危ぶまれたが、運よく天候に恵まれ、会を催すことができた。当日の運営に関しても、全職員が明確な役割分担のもと手落ち無く進める事が出来た。他校の中には、参加者が大きく減少する高校がある中で、本校は昨年よりも参加者が増加し、しっかりと本校の良さ伝えることが出来たと感じる。	A